

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100163		
法人名	社会福祉法人 徳誠福祉会		
事業所名	グループホーム おきだて		
所在地	青森県青森市富田5丁目7番21号		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成27年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気ですやかに過ごしていただけるように、入居者と職員の関わり合いを大切にしている。 毎月、色々な行事を企画している他、地域住民や家族を行事に招待して交流を深めている。 また、近隣に同法人のデイサービスセンターや保育園、特別養護老人ホームがあり、遊びに行ったり、行事にも参加してる。 その他、季節感のある装飾品を入居者と一緒で作成して飾り、ゆったりとした生活空間を作ることが心がけている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは住宅街にあり、近隣住民と顔を合わせる時等に積極的に挨拶や声かけを行い、交流を深めている。 また、近隣の畑を借りて収穫したトウモロコシやジャガイモ、枝豆等をメニューに盛り込み、利用者が食事を楽しめるように取り組んでいる。 職員は、「食事にいきたい」、「旅行がしたい」、「空襲の展示を見に行きたい」、「墓参りがしたい」等の利用者の希望を叶えられるように、家族にも協力を働きかけながら支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「家庭的で安心、安全な生活」、「自立した生活」、「人間として尊厳のある生活」を掲げ、施設内に掲示し、共有化に努めている。	設立当初に法人が定めたホーム独自の理念があり、玄関の見やすい場所に掲示して、職員一人ひとりがいつでも確認できるようにしている。職員は理念の意味を理解し、利用者の思いを可能な限り日々のサービスに反映できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭等の行事へ招待したり、普段から挨拶や町内のゴミ拾い等で地域住民との交流を図っている。	ホームは住宅街にあり、町内会にも加入している他、納涼祭には近隣住民に参加の声をかけたり、近くの保育園の行事に参加し、交流を図っている。また、近隣住民と顔を合わせる時等に、積極的に挨拶や声をかけを行い、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事を通じて、認知症の方々への理解を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や活動内容を報告し、意見について話し合い、サービスの向上に努めている。	2ヶ月毎に定期的に運営推進会議を開催し、地域包括支援センター職員や町会長、利用者、家族等が出席している。会議では、町会長から行事等の地域情報を提供してもらう等、意見交換が盛んに行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議録の提出や毎月の待機者の情報を報告し、情報交換を行っている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し、情報提供面等での連携が図られている。また、問題が生じた場合は解決に向けて、その時々の内容により、行政に出向いて相談して解決に至り、良好な連携関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアの仕方について普段から話し合い、身体拘束につながらないように努めている。また、声かけの仕方についても職員間で注意合っている。	身体拘束は行わない方針で日々のケアサービス提供に努めており、日々のサービスの中で、身体面に関してだけでなく、言葉による精神的拘束にならないように、職員同士も互いに声をかけ合っている。また、外部研修にも積極的に参加を促し、理解を深めるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだ事を勉強会で発表し合い、虐待のないように注意し合って、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修等に参加し、勉強会や報告書等を通じて、職員間で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に施設内の見学や事前訪問を行っている。訪問の際、施設の方針やケアの他にも不明な点を、詳しく、わかりやすい説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された際に要望や意見等を伺い、サービスに反映させている。行事の際にアンケートを配り、玄関に目安箱を設置する等、より話しやすく、意見しやすい環境に努めている。	日常の会話や態度等から、利用者の要望等を察した時には話しかけ、思いや希望を引き出すように努めている。また、利用者や家族等からの希望、意見等があれば、内容により職員間で話し合う等、常に検討し、日々のケアに反映して、より良いホーム運営につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝行っている申し送りやユニット会議で意見を出し合い、現場の職員からの意見や問題・改善点等を話し合っており、話し合うことでサービスに反映させている。	月1回開催のユニット会議や申し送り時において、運営方法や業務、勤務内容等について話し合い、ホーム内で生じる事例に関して意見交換がなされており、疑問点があれば、その都度、管理者と職員で意見交換をし、サービスの向上へとつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	学歴や資格、実績や経験に合った給与水準を維持し、研修や勉強会等で得た情報を共有しており、チームワークがとれるだけでなく、各々が目標を持って働ける環境を維持している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各々の学びたい内容を基に、研修を受ける機会を確保し、学んだ知識を勉強会等で他の職員に伝えることで、互いを育成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修会に参加し、情報交換等の交流を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との普段からのコミュニケーションや信頼関係を築き、安心感を感じると共に、悩みや困った事等を傾聴し、入居者と一緒に解決している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と個別に相談する機会を設けている他、職員と家族のコミュニケーションを通して、いつでも相談できる環境、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現在の状態や家族の意見・要望等を伺った上で介護計画を作成し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の尊厳や様々な思いを大切にし、洗濯たたみ等の家事を一緒に行い、共に支え合い、協力し合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな変化も見逃さず、家族への連絡を行い、必要な協力をお願いして支援してもらう等、共に入居者を支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や大切な場所等を把握し、電話をかけたり、会う機会を提供できるように努めている。	入居時、利用者や家族から聞き取り等を行って情報収集し、日々の暮らしの中での会話等から、馴染みの人や場所を把握している。利用者の「自宅に帰りたい」、「お墓参りに行きたい」等の思いに対し、家族へ連絡する等の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立したり、対立しないよう、職員が間に入って対応しており、円滑なコミュニケーションへの橋渡しを行っている。また、一緒にレクリエーションや作業を行う環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が入院等をする際は病院へ情報提供し、本人や家族の相談や支援を通し、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションを通して、本人の希望や意向を把握するように努めている。	日々の暮らしの状況や日常会話、職員の気づきを話し合うことにより、利用者の思いや希望、意向を把握するように努めている。また、毎朝の申し送り等で情報を共有し、利用者一人ひとりの意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションや家族からの情報を職員同士で共有し、毎日の支援に取り入れ、活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態や希望を把握し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや月1回のユニット会議、3ヶ月毎のモニタリングを実施し、入居者一人ひとりの現状を把握して、各自の意見やアイデアを反映し、検討している。	職員の気づきを申し送りや個別ケースへの記録を利用して情報の共有を行い、月1回のユニット会議を利用して意見交換を行いながら、利用者本位の個別具体的な介護計画を作成している。また、日々のケアの中で利用者の状態に留意し、希望を汲み取るように努めている他、面会時等に家族と話をし、希望に変化がないか把握するように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の生活の様子や行動、言動を記入し、毎日の申し送りや月1回のユニット会議を通じて、情報を共有している。必要に応じて変化等に対応し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、思いや願い等を把握し、できる範囲で支援するように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人のデイサービスや保育園等の行事への参加を通じて、地域の中で楽しみを持ち、暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。また、精神科や歯科等の受診の際は、本人や家族と話し合い、かかりつけ医の意見や指示を基に受診している。	希望する医療機関やかかりつけ医への継続受診の他、症状により適切な医療機関を受診できるように支援している。また、看護師資格を有する職員がおり、医療面でのきめ細やかな対応が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時のバイタル測定や普段の身体状態の確認、本人の訴えから異常が見られた場合は、すぐに看護師に報告し、適切な処置、受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連絡を密に取り合うことで、体調不良時の受診や入院が迅速に行えるように努めている。また、入院時にはお互いに情報交換をできるような関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にしている。また、家族や医師と話し合い、事業所のできる事を十分に説明し、支援に取り組んでいる。	日常的な健康管理は看護師がしており、必要に応じて協力医療機関からの指示を受けられる連携関係にある。また、ホームとしての「重度化した場合における対応方針」、「看取りに関する指針」を定めている。	今まで終末期ケアを経験したことが無いことから、今後、このようなケースが出ることを想定し、職員の理解を深めるために、職員会議等で指針に関する勉強会を実施してみようか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当でAED使用の訓練を定期的に行っている。また、様々な事故や急変時の対応マニュアルを作成し、職員が迅速に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練や連絡網の確認を行い、災害に備えている。また、訓練時には地域住民の協力を得て行っている。	年2回、夜間を想定した避難訓練を実施しており、ホームでの具体的な避難誘導策が作成されている。また、スペースの関係上、飲料水やストーブ等の非常時の備蓄品は隣接する同法人施設に備え、ホームの2階には缶詰等の非常食を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルに基づき、一人ひとりの思いを受け止めながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。理念にある「人間として尊厳のある生活」を支援している。	利用者の自尊心を傷つけないよう、言葉遣いや、話す時も視線を合わせる等の目線にも気配りをしている。また、利用者の全ての言動を受け入れるように心がけ、発する言葉が心理的虐待にならないように配慮し、お互いの存在を確認しながらのケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話やコミュニケーションから入居者の希望を聞いたり、感じ取り、できる限り自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や状態に合わせて、一人ひとりのペースを大切にして、1日を過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧したり、衣類を自由に選択することに対応し、本人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話やコミュニケーションから一人ひとりの好き嫌いを把握し、献立に反映させている。また、個々の力に合わせて、職員と一緒に食材の下処理や準備、片付けも行っている。	利用者の好みを取り入れながら、職員が栄養バランスに配慮した献立を1週間毎にを作成し、苦手なものには代替食を準備して、個々に合わせた食事を提供している。また、調理準備や片づけ等も、無理なく手伝えることは利用者と共に行動するように働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の身体状況や好き嫌いを把握し、食べやすいように工夫している。また、定時の水分補給の他、本人の希望時や運動、体操、入浴後にも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じたケアにより、口腔内の清潔保持を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をすることで、自立に向けた支援を行っている。	排泄を記録することにより各自のパターンや固有のサインを把握し、その人に合わせたトイレ誘導を行っている。また、排尿の感覚が鈍くなったり、常時失禁の利用者に対しては、パットやリハビリパンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中に行う体操にできるだけ参加するように声かけをしている。それに伴い、水分補給の声かけをしている。また、排便状態に合わせて、下剤の服用で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴前の健康状態を確認し、入居者の希望に沿った時間や方法で、安心して入浴できるように支援している。	その時々体調にもよるが、清潔保持の意味合いもあり、週2回は入浴するように声かけをしている。入浴を嫌がる時は時間をずらしたり、決められた曜日でなくても入浴できるようにしている。また、それでも拒否する利用者には、あえてお風呂であるとは告げずに、「順番が回ってきましたよ」と促す等、性格に配慮しながら対応を工夫し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中眠気が見られる時は、居室へ誘導したり、ソファのリクライニングを使用して、休めるようにしている。また、日中のレクリエーションや体操、作業で活動時間を増やし、夜間眠れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の用法や用量を全て理解できてはいるが、すぐ見れる所に薬情をまとめ、確認できるようにしている。また、複数の職員で確認をすることで、間違いなく服用するように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話から趣味や嗜好を理解し、気分転換ができるように支援している。また、レクリエーションや作業を通して、一人ひとりが役割や楽しみを持って過ごせるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日等はホームの近所を職員と一緒に散歩したり、日向ぼっこをしている。本人の希望を把握し、家族と外出できるように支援している。	利用者の楽しみや気分転換につながるよう、天気の良い日はグループホームの近所を散歩したり、近隣の同法人施設に立ち寄っている。また、季節の良い時期には月に一度、行事の一環として、花見や近隣の名所、観光施設、外食等に出かける等の支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが、必要時は本人や家族へ連絡して確認し、買い物へ同行したり、代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば、いつでも電話をかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度の管理を行い、心地よく過ごせるように努めている。また、季節感を取り入れた装飾を入居者と一緒に作成し、飾っている。	ホーム内は全体的に季節を感じさせる創作物が飾られており、冷暖房はオール電化で設備され、利用者がゆったりと過ごせるように配慮されている。また、ホーム内は大きな窓からは日差しが入って明るく、テレビの音量も適切で、職員は一人ひとりに配慮しながら話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが自由に作業やレクリエーションをできるように支援している。要望に応じて場所を移動したり、変更している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望を取り入れた家具の配置や、本人の使い慣れた物を使用して、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には家族の写真や利用者の趣味の作品、好みの物が置かれ、一人ひとりの価値観を大切に、その人なりの居室づくりをしている。また、居室への持ち込みが少ない利用者には、誕生日の色紙等を壁に貼る等、利用者にとって居心地の良い居室となるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、安全で自立した生活を送れるように見守り、一部介助にて支援している。		